

# ピアホームだより

2012.11.10

## 名古屋病地学会に参加

10月13日(土)、名古屋で病地学会が開かれました。GHを始めるに当たり、病地学会員となって3年、初年度は、東京での学会だったこともあり、GH立ち上げの経験を発表致しました。これまで、島根、愛媛とあまり行く機会のない地方での学会に参加し、元気な活動を見て来ましたが、今回のプログラムの印象はやや薄く？震災を受けてのテーマが多いように感じました。

GHを運営するものとして、「地域移行」部会に顔を出し、その受け皿として考える機会となりました。主に、スムーズな移行に向けた準備—プログラム化などが発表されていました。初期の頃の失敗を思い起こします。長期入院の方には、病院から地域への壁は非常に高いのです。準備は怠らざ—です。

ランチョンセッションは藤田医師の岡山ACTの発表。ここは、ドキュメント映画「精神」の舞台となった岡山コラルのある所でもあり、体験に根差した味わい深い言葉が次々と話されました。

今回、「家族」というテーマでの部会もありましたので、午後はそちらに顔を出し、質問もしてきました。上手くいっている家族例、どんな関わり方が好ましいのかの科学的な検証—など発表されていましたが、困惑している家族の具体的な支援についても考えてほしいものです。

名古屋の近くに半世紀も前に住んでいたもので、懐かしい思いで代表的な観光地をひとめぐり。名古屋名物も大変美味しく、短くも楽しい旅になりました。

## アドボケイト会の症例検討会

年に1回となってしまっていますが、久しぶりに顧問白石先生を迎え、症例検討会を開催しました。リトルハウスも来年で10年、ピアホームも4年になります。それなりに経験を積み重ね、地域リハビリに対する自分達なりの理念や支援のスタイルもつくって来たと思

いますが、他流試合をしないと独りよがりになってしまいます。昨年まで、友人故中村さんのクラブハウス町田のしゃべくり作業所を経験出来て、大変参考になっていたのですが、このところ内向きになってしまっていないか反省しきりです。

ピアホームから症例2例、リトルハウスから4例ほど出し、捉え方、視点と言ったものをお話し議論できました。改めて、白石先生の症例の捉え方は、何と斬新ですっきりしてるんだろうと感心しきりでした。

薬剤にしても、統合失調症の症状の特徴にしても、基本をしっかりと捉えていることが大切だとの思いが改めてしました。

そして、やはり、その人とちゃんと向き合っているからこそ、色んなことがみえてくるんだと感じました。私が見えていないもの、気付かなかったこと、ちょっとした報告のなかでの確に捉えて、その人の状態を推察する—プロと言う言葉だけでは言い表せませんが、こういうことなんですね。

## 11月の行事

<11月11日>白石先生主催交流会